

# 福島県立安積高等学校

## 第百三十期生入学式 式辞

日 時 平成二十六年 四月 八日

場 所 福島県立安積高等学校第一体育館

### 式辞

（本日は、あいにく雨雲が、空の春を隠しておりますが、）

風が柔らかに薫り、桜の花咲き初<sup>そ</sup>める季節となり、川の流れも、大地も、空も、全てが生命のエネルギーに充ちあふれようとしております。

本日、福島県知事 佐藤雄平様を始め、県議会議長代理の県議会議員 椎根健雄<sup>しげね たけお</sup>様ほか、多数の御来賓の御臨席を賜り、第百三十期生入学式を挙行できますことは、誠に喜ばしい限りであります。

ただいま、入学を許可しました三二〇名の

新入生の皆さん、入学おめでとう。厳しい入学試験を見事突破し、今は感激と期待とで胸が一杯になっていることでしょう。この喜びの陰にあつて、ひたすら健やかな成長を願ひ、ご苦労された保護者の方々、そして親身になつて叱咤激励していただいた小中学校の先生方など、皆さんを支えてくれた方々のことを決して忘れてはなりません。

さて、本校は、明治十七（一八八四）年に本県唯一の旧制中学校として創立されて以来、今年で百三十年目を迎える日本でも有数の

歴史と伝統を有する高等学校であります。これまでの卒業生は、約三万三千名を数え、様々な分野での活躍は枚挙にいとまがありません。

ここで、「第百三十期生入学式」という表現に改めて注目してください。他の高校では「平成二十六年度入学式」とするのが一般的であり、「第何期生入学式」としているのは本校だけあります。安積高校創立百三十年目に入学、同期生と共に、一三一年、一三二年と安積の時間を刻んでいく、そのことを強く心にとどめてほしいとの多くの先輩たち

の熱い思いから、他に例のない言い方になっ  
ているのです。

この安積で、時間や言葉・記憶を共にする  
こと、具体的には、勉学に励み、部活動で  
仲間の大切さを実感し、紫旗祭、紫の旗の祭  
りと書きますが、その紫旗祭という学校祭で  
クラスが一つになり、安積の空気を胸一杯  
吸い込み、「安積」という学校文化を三年間  
共有すること、これが安積で学ぶ最大の意義  
であり、そして、安積の誇り・プライドであ  
ると私は考えています。

さて、安積の精神・スピリッツである

「開拓者精神」「質実剛健」「文武両道」は  
男女共学となっても変わることなく、生徒諸  
君の進むべき道を照らし続けていますが、  
これは一朝一夕にできたものではなく、百年  
以上の長い時をかけて揺るぎないものになっ  
たものです。それらは、ただ何もせずを得ら  
れるものではなく、常に先輩達から学び取る  
ものであり、そうしなければ伝統を受け継ぐ  
ことはできません。

また、「文武両道」を実践するためには、  
かなりのエネルギーを必要とします。そして、

何と言つても「集中力」が鍵となります。限られた時間の中で、いかに集中して勉学に打ち込み、いかに密度の濃い練習で自らを鍛えるか、安積の教師集団は皆さんと常に真剣勝負をしながら、必ずや君たちをリードしてくれるはずです。

保護者の皆様には、お喜びもさぞかしのこ  
とと、心からお祝い申し上げます。私ども教  
職員一同は、新入生を迎える喜びとともに、  
責任の重さをこの両肩に感じています。これ  
からの三年間、本校教育の推進に、御協力、  
御支援を賜りますようお願い申し上げます。

御来賓の皆様、本日は年度始めのお忙しい  
中、御臨席を賜り心より御礼を申し上げます。  
現在本校は、本年九月の百三十周年記念式典  
に向けた準備を進めるとともに、充実した  
学校生活を送ることができるよう、教育環境  
の整備に努めているところであります。今後  
とも安積の教育に対し、深い御理解と温かい  
御支援をお願い申し上げます。

終わりに、あの東日本大震災から三年と

一か月が過ぎようとしています。復旧・復興は少しずつ進んでいると考えますが、一方で、本県の小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒一万人以上が、未だに県内外で避難生活之余儀なくされている現実があります。大震災以降、「ふくしまの復興に自分の学びを活かしたい。ふくしまのために何かをした」とこのように考える高校生が増えています。勿論、世界へ飛躍しようとしている生徒も大勢いますが、その場合でも、「三・一一以降のふくしま」を心にとめて、できれば、最終的にはふるさと福島の地に足をしつかり

つけて活躍してほしいと考えています。

第百三十期の生徒の皆さんは、大震災の発生から間もない、不安な空気が漂う春に中学校に入学して三年間を過ごしました。皆さんはつらい体験を乗り越えてきた、或いはまさに乗り越えようとしています。いや、乗り越えようと未だにもがいている人もいるかも知れません。その体験は非常に貴重なものであり、むしろ皆さんが前に進んでいく力、原動力となるのではないでしょうか。その得がたい経験を生かして、自分の夢をみつけ、

その夢に向かって高い志を掲げてください。  
そして、その志を持ち続けて、安積の同期生  
と共に切磋琢磨し、安積の誇りを胸に抱いて、  
充実した高校生活を送ってください。  
第百三十期生が誇り高き安高生に成長して  
いくことを期待するとともに、  
三年後の皆さんの輝く瞳と笑顔を思い描いて  
式辞と致します。

平成二十六年四月八日

福島県立安積高等学校長 久保田 範夫